

執筆者一覧（掲載順）

- | | |
|---------|--|
| 下 地 和 宏 | 宮古郷土史研究会 |
| 大 田 静 男 | 石垣市立博物館協議会会長 |
| 彭 国 躍 | 非文字資料研究センター研究員
神奈川大学外国語学部中国語学科教授 |
| 安 室 知 | 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科教授 |
| 白 松 强 | 湖北民族大学讲师 中南民族大学博士后 |
| 王 麗 | 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
景德鎮陶磁大学専任講師 |
| 加 藤 里 織 | 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程 |
| 姜 婧 | 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程 |
| 包 周 娜 | 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程 |
| 邱 昱 翔 | 大阪市立大学文学研究科 博士後期課程 |

■編集後記

『非文字資料研究』第19号をお届けします。巻頭を飾るのは、2018年7月7日にセンター主催で行われた公開研究会「宮古・八重山の御嶽と神社——近代沖縄の地域社会と祭祀再編」で報告された発表を基にしたものです。研究会については毎回ニューズレターで報告を行うものの、紙幅の制限があるため、その内容を完全に網羅することはできません。今回、招待論文として執筆していただいたおかげで、広く研究成果を公表することができました。お二人に感謝するとともに、こうした機会を増やすことで、『非文字資料研究』が研究会と有機的に結びついたメディアであることを示していきたいと考えています。

一方、彭国躍氏の従軍画家の作品分析は、長年にわたる研究の一部をなすものであり、安室知氏による柳田国男の周圏論の再考は、歴史的検討を通じて民俗学の方法論を検討するという論文です。白松強氏の無形文化遺産論、王麗氏の景德鎮製作用具論と合わせ、それぞれのフィールドで反響を呼び起こす論文となることを期待しています。

若手研究者の論文とベテランの研究者の論文が共存する論集は、学問の世界の持続可能性を称揚し、その確立を目指すという意味で、大変貴重なもののように思います。周圏論(wave theory)が、ある一つの変化が周辺に波紋を呼んで伝播していくというモデルであるように、本紀要も広大なアカデミズムの世界に、一石を投じるものであることを願ってやみません。(熊谷)

■表紙説明

表の写真は漲水御嶽である。漲水御嶽は宮古の中心的な御嶽で開闢神話の古意角・姑依玉の男女神が祀られる。1918年立津春方らは「漲水御嶽や観音堂、権現堂の見るに見かねる惨状は、神仏に対して申し訳がたたない」と、寄付を募り「立派な神社」を造営した。さらに1932年再び寄付を募り神域を拡大した。漲水御嶽は神社様式に変えられ漲水神社と称されるようになった。鳥居は1918年の時点で建立されたと思われるが、額束はない。鳥居は2017年に改築され、額束に漲水御嶽と記されている。

裏の写真は池間島の大主御嶽で、「御嶽由来記」には池間御嶽の名で記録されている。御嶽はナナムイ(7神の杜)と称される。12個の卵生伝説が伝えられ、1人は大主御嶽の子方母天太神として祀られる。他に阿津真間御嶽、赤崎御嶽、美真瑠御嶽、赤名宮などの神々になったといわれる。鳥居の左側に建つ記念碑の1基(損壊)には「大正十二年十二月建設/大主神社」、もう1基には「大正十二年十二月吉日/鳥居建設紀年碑」と記される。鳥居の額束にも大主神社と記されている。鳥居は参道奥にも建立されている。(下地)

非文字資料研究 第19号

The Study of Nonwritten Cultural Materials No. 19

発行日	2020年1月31日
編集・発行	神奈川県立 日本常民文化研究所 非文字資料研究センター 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/
印刷	株式会社 精興社
雑誌コード	ISSN 2432-5481